

セグメント別概況

当第2四半期において、Global Research事業を除く各事業が増収となりました。なかでも益新事業の伸長が大きく寄与しました。一方、利益面は、Global Research事業が新規案件の獲得に苦戦したほか、CRO事業が前年度に好調であった反動を受けて前年同期比でマイナスとなりました。

CRO事業

売上高15,884百万円(前年同期比1.5%増)、営業利益2,950百万円(前年同期比20.4%減)となりました。M&A*によって売上高は増加しましたが、利益は、治験のモニタリング業務における前年度の好採算案件の反動を受けて減益となりました。

*2018年11月の往来技術株式会社子会社化、2019年2月のACメディカル株式会社子会社化を指します。

SMO事業

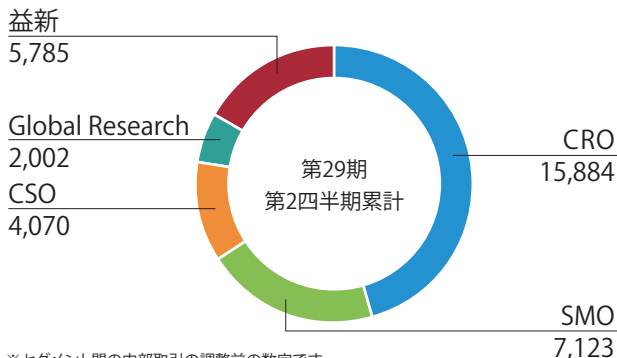
売上高7,123百万円(前年同期比1.3%増)、営業利益815百万円(前年同期比62.0%増)となりました。提案型営業を推進したこと、大型案件で被験者を早期に選定できたことが増収に寄与しました。また、プロジェクト管理の強化に加え、要員の適正配置によるコスト削減が奏功して大幅な増益となりました。

CSO事業

売上高4,070百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益168百万円(前年同期比4.7%減)となりました。医薬向けCMR(契約MR:医薬情報担当者)の需要ははまだ好転しないものの、コールセンターやBPOなどの他業務が収益を補い、概ね計画通りで推移しました。なお、2018年に設立した合併会社ESリンクは、営業強化に努めています。

セグメント別売上高

(百万円)



※セグメント間の内部取引の調整前の数字です。

Global Research事業

売上高2,002百万円(前年同期比24.7%減)、営業損失96百万円(前年同期は120百万円の利益)となりました。アジア・パシフィックにおけるグローバル治験が増加する一方で、グローバルCROとの競争が激化したことで新規案件の獲得が伸び悩み、売上高、営業利益とも計画を下回りました。

益新事業

売上高5,785百万円(前年同期比11.6%増)、営業利益140百万円(前年同期は144百万円の損失)となりました。製品関連事業の主力製品であるインターフェロンは、中国市場で高いシェアを獲得しています。当期は、この製品の市場深耕と新規顧客の開拓が順調に推移し、収益を拡大しました。

通期の見通し

通期業績は、当初の計画通り、売上高72,000百万円、営業利益7,200百万円、経常利益7,350百万円、親会社株主に帰属する当期純利益4,700百万円を予定しています。